

## 理想の森さがし

採用プログラム：「ガールスカウト岩手県連盟」

### 【プログラムの概要】

児童たちが、森林や森林をとりまく問題などを考え、それを自分たちの身近な森と比較し、実際に体験することで、改めて森林やそこに生息する生物などとの関わりについて理解を深め、理想の森林について考えを巡らせることで、身近な森を新しい視点で観察し、学ぶことができるプログラム。

また、自分たちが考えた理想の森林について、自由な表現手法を用いて発表することで、児童らの進んで参加する姿勢を養い、地域の森林を自分たちの理想の森林に近づけるための意見交換など、率先した行動を養うプログラム。なお、本プログラムは、「ガールスカウト岩手県連盟」で実施されたプログラムにESDの視点を取り入れ汎用化したものです。

### 【プログラムの所要時間】（1時間=45分）

本プログラムは「導入」、「展開」、「まとめ」で構成され、「展開」ではフィールドワークが予定されており、その内容によって所要時間に変動がありますが、概ね10時間程度を所要時間として設定しております。

### 【主なESDの視点】

持続可能な社会づくりの構成概念						ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度						
Ⅰ 多 様 性	Ⅱ 相 互 性	Ⅲ 有 限 性	Ⅳ 公 平 性	Ⅴ 連 携 性	Ⅵ 責 任 性	① 批 判 的 に 考 え る 力	② 未 来 像 を 予 測 し て 計 画 を 立 て る 力	③ 多 面 的 ・ 総 合 的 に 考 え る 力	④ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン を 行 う 力	⑤ 他 者 と 協 力 す る 態 度	⑥ つ な が り を 尊 重 す る 態 度	⑦ 進 ん で 参 加 す る 態 度
○	○	○					○	○			○	

### 【ESDの目標】

#### （1）構成概念

- ・ 森の中にはさまざまな環境があり、環境に応じてさまざまな生物が生息。（Ⅰ多様性）
- ・ 森に住む生物は、周囲の環境や他の生物と関わりながら生息。また、森の環境は地域の人の生活や経済とも密接に関係。（Ⅱ相互性）
- ・ 木材など森の資源は限りがあるが、適切に管理をすれば持続的に利用可能。（Ⅲ有限性）

#### （2）能力・態度

- ・フィールドワークや理想の森を考えることを通じて、地域の森林の未来像を考える能力を養う。(②未来)
- ・森林は様々な特徴や機能を理解することで、ものごとを多面的総合的に考える能力を養う。(③多面的総合的)
- ・地域の森林を通じて、自分たちの生活や地域の産業などの様々な要因が関係していることを理解し、お互いに相手の立場を尊重して理解しようとする態度を養う。(⑥つながり)

## 【学習指導要領による関連教科】

### 社会

#### 第3・4学年

(2) 地域の人々の生産や販売について、次のことを見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。

ア 地域には生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること。

(3) 地域の人々の生活にとって必要な飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、これらの対策や事業は地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを考えるようにする。

ア 飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理と自分たちの生活や産業とのかかわり

(5) 地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。

ア 古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子

### 理科

#### 第3学年 B生命・地球

(2) 身近な自然の観察

身の回りの生物の様子を調べ、生物とその周辺の環境との関係についての考えをもつことができるようにする。

#### 第4学年 B生命・地球

(2) 季節と生物

身近な動物や植物を探したり育てたりして、季節ごとの動物の活動や植物の成長を調べ、それらの活動や成長と環境とのかかわりについての考えをもつことができるようにする。

### 図画

### 工作

#### 第3・4学年 A 表現

(1) 材料や場所などを基に造形遊びをする活動を通して、次の事項を指導する。

ア 身近な材料や場所などを基に発想してつくること。

(2) 感じたこと、想像したこと、見たことを絵や立体、工作に表す活動を通して、次の事項を指導する。

ア 感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けて表すこと。

イ 表したいことや用途などを考えながら、形や色、材料などを生かし、計画を立てるなどして表すこと。

ウ 表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表し方を考えて表すこと。

**【教科・単元の関係】**

	導入	展開	まとめ
<b>社会</b>	・森のイメージと問題点を考え、身近な地域の森と比較する	・地域の森と産業・環境の関わりを考え、理想の森を構想する	
<b>理科</b>		・地域の森で生きものや社会・経済と森の関わりを観察し、一般的な森のイメージと比べて考える	
<b>図画 工作</b>		・理想の森をイメージし、それを表現する素材を森の中から集める ・森の中で集めた素材を用いて工作して、紙芝居や人形劇、演劇、絵などを作る	・理想の森を発表し全体で共有する

【プログラムの流れ】（1時間＝45分）

学習のねらい・取組例	教材等
<p><b>【導入】</b> 森と自分たちのつながりについて考える（2時間）</p> <p>①一般的な森のイメージと問題点などについて考える。</p> <p>②一般的な森のイメージや問題点が、自分たちの地域の森や山とでは、どこが一緒でどこが違うのかを考える。</p> <p>③自分たちの地域の森の特徴について考え、実際に行って確認するものをいくつか決めておく。</p> <p>[取組例]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一般的な森や山、森林に関するイメージや問題点、課題について意見交換する。</li> <li>地域の森や山について、同様のイメージや問題点等が、どう関わるか意見交換する。</li> <li>児童からの意見を5～10種程度の確認事項としてとりまとめ、フィールドワークの際に実際に確認することとする。</li> </ul>	<p>□林業統計 □森の写真等</p>
<p><b>【展開（フィールドワーク）】（4時間）</b> 身近な森を観察し、事前の確認事項を実際に確認するとともに、<b>発表に向けた材料を見つけながら</b>、自分たちが考える理想の森をイメージする。（3～6時間）</p> <p>①身近な森を通して、一般的な森との違い等を実際に確認する。</p> <p>②身近な森の特徴をよく観察し、自分たちが考える理想の森を考えて発表するための材料を自分たちで見つけ出す。</p> <p>[取組例]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事前にとりまとめた確認事項は、カードやビンゴなど児童たちが確認しやすいツールとするとプログラムへの意欲や理解が深まる。</li> <li>地域の森を観察し、自分たちが考える理想の森をイメージして発表するための材料探しを通して、森の構造や生物の多様性、過去から現在の森林と人々との接し方の違いなどを理解する。</li> </ul>	<p>□カード等のツールやワークシート等</p>
<p><b>【まとめ】（4時間）</b> <b>自分たちが考える理想の森</b>を表現する作品を作成して、発表する。</p> <p>[取組例]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>フィールドワークで採取した材料を用いて、自分たちが考える理想の森を発表する作品（※）を作成する。（※発表するツールは、実施者や児童の提案などで自由に設定した方が、プログラムへの意欲や理解度が深まる。人形劇や紙芝居、演劇等による発表もプログラムとして実施可能。）</li> <li>発表後は、お互いの理想とするポイント等について意見交換し、身近な森が児童らの理想に近づくもしくは実現するために自分たちが出来ることを話し合い、共有する。</li> </ul>	

みなさんの地域の森と比較してみましょう。

みなさんの地域の森の特徴を確認するためには、どのような方法があるか、ユニークなアイデアを考えてみてください。

どのような発表にするか、発想豊かなアイデアを盛り込んでみてください。

[フィールドワーク]で見つけた材料を使って、発表ツール(例:紙芝居や紙芝居等)を作成し、グループごとに発表し、理想の森について、自分たちができることなどの考えを共有する。

## 【実施者マニュアル例】

内容	進め方・留意点
<p><b>【導入】</b>（計2時間）</p> <p>①森について考えよう（2時間）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般的な日本の森林について、児童達のイメージや考え、教科書や参考書等の情報などから列挙し、さらにその問題点や課題などについて考えを挙げていく。</li> <li>・挙げられたイメージや問題点等が、自分たちの身近な森や山、森林などとはどういう関わりがあるか、児童達で意見交換を行う。</li> <li>・自分たちの森とイメージや課題などが一致したり、不一致となったものなどを整理し、フィールドワークの際に実際に確認する項目について5～10個程度とりまとめて、これをビンゴやカードといったツールとして用意する。</li> </ul>
<p><b>【展開（フィールドワーク）】</b>（計4時間）</p> <p>①森を観察しよう（4時間）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビンゴやカードなどのツールやワークシート等を活用して、事前にとりまとめた確認事項を児童達が森の中を観察しながら確認する。</li> <li>・確認事項の観察が終わったあと、実際に観察した森を踏まえて自分たちが考える理想の森をイメージし、その発表手段を決め、必要な材料等を採取する。</li> </ul>
<p><b>【まとめ】</b>（計4時間）</p> <p>自分たちが考える理想の森の発表ツールの作成と発表（4時間）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワークで採取した材料を使って、自分たちが考える理想の森の発表ツール（※）を作成する。（※人形や紙芝居、演劇、壁新聞等）</li> <li>・発表ツールを使って、グループ毎などに発表を行い、発表後はそれぞれの理想とするポイントや問題点などについて意見効果を行って共有する。</li> <li>・共有した理想の森に向けて、自分たちが出来ることなどを考えて、考えを共有する。</li> </ul>

※個々の「内容」についてはI～VI、個々の「進め方・留意点」については①～⑦のそれぞれ何を主眼とするか意識して実施する。